

## 言語活動の充実に向けた ICT 利活用の実践事例 ～スマホをかざすと写真が動くよ！「動くお便り」～

学級通信の紙面の写真にスマートフォンをかざすと、その写真が動画となって視聴できる「動くお便り」という、メディアを活用して学校での様子を家庭に向けて発信しているという事例です。

生徒のコミュニケーション能力の向上をねらい、生徒同士や家族との会話のきっかけづくりとして、お便りを活用しています。

また、紙面と動画というメディアを越えたお便りづくりから、ICT利用の手だてをさらに発展させていくヒントが得られることでしょう。

- 紙面に掲載されている写真にスマートフォンのカメラをかざすと、ワンポイント動画を見ることができるAR（Augmented Reality）と呼ばれる機能があります。出版や広告の世界では、実際の写真などに映像情報を付け加える形で、さまざまな演出が行われています。また、教科書によっては技術・家庭や数学などでも、この機能が取り入れられているページがいくつかあることをご存じでしょうか。
- 学校が発行するお便りの紙面には、各種行事の様子など様々な写真が掲載されることでしょう。その部分にアプリケーションで30秒程度のARを設定し、記事や写真とともに、生徒や保護者が動画も観ることができるようにしました。
- スマートフォンに専用アプリケーションをインストールする必要がありますので、うまくできない保護者もいらっしゃいましたが、授業参観日での学級PTA懇談会等において操作方法を担当の先生が手ほどきしました。また、機器操作に手慣れている生徒も多いので、自宅で家族に教えてあげながらお便りの記事とともに動画も楽しんでいただいたようです。
- コミュニケーション能力不足の解消を目指し、生徒同士の会話のきっかけを願って発行している学級通信を、新しいメディアへと発展させている担任の先生の学級経営への学びの姿勢が感じられる事例です。

※ 紙面の場合と同様に、動画に映っているすべての人物の肖像権に充分配慮し、必要に応じて許諾を受けることも忘れてはなりません。